

# 遠藤周作学会 会報

第 12 号

2017 年 10 月 25 日

発行 遠藤周作学会

代表 川島秀一

二〇一七年度遠藤周作学会・全国大会  
総会報告

事務局より

## ◇第十二回二〇一七年度遠藤周作学会・全国大会開催

第十二回二〇一七年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇一七年九月十六日（土）に、清泉女学院大学にて開催された。

運営委員会が十二時より行われた後、十三時半より本学会代表、川島秀一氏より開会の辞が述べられた。次に、総会が行われた後、以下プログラムのとおり研究発表が行われた。続いて、清泉女学院大学の古橋昌尚氏による講演が行われた。大会進行役は大阪産業大学非常勤講師の古浦修子及び、ノートルダム清心女子大学の山根道公氏が担当した。

## プログラム

### 【研究発表】

① 「ミステリー作家」としての遠藤周作

— 『影なき男』が示すもの —

南山大学 金 承哲  
上智大学 福田 耕介

② キリシタン史料から考察する

「留学生」の荒木トマス

— 『沈黙』に先駆けた作品として —

上智大学大学院 香川 雅子  
大阪産業大学非常勤講師 北田 雄一

③ 遠藤周作『死海のほとり』

〈巡礼〉の章における「事実」と「真実」

— フランクル『夜と霧』との

関連性をめぐって —

広島大学大学院 倪 楽飛

- ④ 遠藤周作『砂の城』論  
司会 上智大学 片山 はるひ

—半自叙伝としての作品構成—

広島大学大学院修了 佐藤 まどか

司会 昭和女子大学 笛木 美佳

- ⑤ 遠藤文学における小西行長

—『ユリアとよぶ女』『鉄の首枷—小西行長伝』

『宿敵』を中心として—

京都外国語大学 長濱 拓磨

司会 川島秀一

### 【講演】

スコセッシはどう『沈黙』を読んだか

—映画 *Silence* と原作の比較をめぐって—

清泉女学院大学 古橋 昌尚

### 【総会】

総会は、議長に金承哲氏を選出して開かれた。まず、二〇一六年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

- ◆ 第十一回二〇一六年度遠藤周作学会・全国大会  
を関西学院大学にて開催。会員二十五名の参加

があった。

- ◆ 機関誌『遠藤周作研究』第十号発行。

第十号は「遠藤周作没後二十年・『沈黙』刊行五十年記念国際シンポジウム」の講演三本と報告書、八篇の論稿、一篇の書評、古浦修子による研究展望を収録。

- ◆ 会員数は、二〇一六年九月時点で一〇五名。二

〇一六年度の新会員は二名。会費未納が続き、事務局と連絡の取れない会員五名を退会扱いとした。退会の基準については、今後の検討課題とする。

- ◆ 遠藤周作事典編集委員会を二〇一六年十一月

二十六日に開催した。

- ◆ 太原正裕氏により監査報告がなされ、二〇一六年度の会計報告が承認された。

続いて、事務局より二〇一七年度事業計画について示された。内容は次のとおり。

- ◆ 学会発足当時より事務局長を務めてくださった山根道公氏が二〇一五年度の役員改選によって副代表となり、兼務する形となっていた。そこでこのたび、業務分担による負担軽減

と事務局運営の円滑化を図るため、新事務局長に笛木美佳氏を選出し、承認された。それに伴い、事務局長補佐は、発足当時より務めてくださった井上万梨恵氏に代わり、古浦修子が引き継ぐことが承認された。

◆ 第十二回二〇一七年度遠藤周作学会・全国大会を清泉女学院大学にて開催。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』次号（第十一号）は、今回の発表者の原稿を掲載予定。募集要項等はこれまで通りだが、次号より編集作業の円滑化のため、投稿先を事務局から編集長の長濱拓磨氏に変更する。

◆ 二〇一八年度の大会は、上智大学で開催予定。会場校の都合により、日程は三月末に決定する。会員にはメールで日程を報告する。

◆ 遠藤周作事典編集委員会を二〇一七年五月十四日、八月十八日に行い、準備を進めている。今大会の翌日、九月十七日にも行う予定。今後、会員にも項目執筆の協力をお願いしたい。

最後に遠藤周作学会副代表の山根道公氏の閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。二十五名が懇親会

会場のホテル信濃路に移動し、発表者の挨拶と会員の近況報告が行われ、始終和やかな交流が行われた。

■ 事務局より

▼第十二回遠藤周作学会・全国大会は、清泉女学院大学にて開催しました。参加者は会員二十六名に、聴講者が十二名加わり、大変盛会でした。この開催のためにご尽力くださいました、会場校の古橋昌尚氏に改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、留学生を含む五人の発表者によってミステリーや歴史小説、中間小説など多岐にわたる作品が取り上げられ、多様な視点からの発表がなされました。台風接近による天候の悪化が心配されましたが、それを忘れさせるほどの刺激的な発表の場となりました。充実した内容が機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

また、古橋昌尚氏による講演会では、遠藤の『沈黙』とマーティン・スコセッシ監督の映画 *Silence* を比較し、その解釈をご教示くださり、映画では原作を深く理解した上で、映像作品としての独自性が加えられていることを熱く語っていただきました。

▼機関誌「遠藤周作研究」第十一号の投稿論文を募集し

ます。機関誌の最後にある投稿規定をご覧くださいのうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。なお、投稿先は編集長の長濱拓磨氏となりますので、ご注意ください。

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6

京都外国語大学日本語学科 長濱拓磨研究室

E-mail: t\_nagaha@kufs.ac.jp

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。

▼次回の大会は、福田耕介氏、片山はるひ氏が所属される上智大学で行われます。遠藤は十八歳のとき、約十ヶ月の間、上智大学予科に籍を置いていました。また、校友会雑誌「上智」第一号に初めての論文「形而上的神、宗教的神」を執筆しており、遠藤文学のテーマの形成と深い関わりが見られます。このような遠藤と縁の深い会場校で、多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼二〇一八年度の大会は、芥川龍之介の長崎訪問から二〇〇年に当たり、国際芥川龍之介学会と合同で、遠藤周作文学館共催の大会を行う案が出ています。詳しくは、追ってお知らせいたします。

▼最後に学会員の方々にご協力のお願があります。機関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、今回に引き続き、古浦が次回も担当いたしますので、遠藤周作に関する、会員の方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、古浦に直接お知らせください。(E-mail: soymilk@titan.ocn.ne.jp)。また、これまで参考文献目録について、遺漏のある場合もご連絡をお願いいたします。

▼二〇一七年一月二十一日に、マーティン・スコセッシ監督の映画「沈黙」が公開されました。前評判どおり、ご覧になった会員の方々からも、原作の真意を汲んだ感動的な作品であったとの感想が聞かれました。今後も遠藤文学が様々な形で再注目され、新たな視点から評価されることを願います。

(文責 会報担当 古浦修子)

### 遠藤周作学会 事務局

〒154-8533

東京都世田谷区太子堂1-7-57 昭和女子大学

日本語日本文学科 笛木美佳研究室内

TEL: 03(3411)5019